



西尾いきものふれあいの里だより

7月号

2025.7.1 発行

さとやま

7月の里といきもの



今年は少し遅めの梅雨入りでしたが、はじめから末期のような豪雨、と思ったら長い中休みは真夏のような酷暑という異例続きでした。また、南の海ではなかなか台風が発生しないという現象が起きています。これらの現象は、地球全体の気象が確実に変化している証ではないでしょうか。いきもの達への影響も心配です。

とはいえ7月には梅雨も明け、里では田んぼの稲も大きく育っていきます。その水辺では、様々なトンボがみつかります。『日本書紀』には、神武天皇がトンボの姿を見て日本を「秋津島（あきつしま）」と名付けたという記録があるほどです。里でよく見られるトンボをご紹介します。

シオカラトンボ

里で一番よく見かけるトンボです。水田のほかにも、万灯山の山頂付近でも山道にとまっている姿に出逢うことがあります。成熟した雄は体全体が黒色で、胸部から腹部前方が灰白色の粉で覆われて、青っぽく見えます。この粉を塩に見立てたのが名前の由来です。未成熟な雄や雌は黄色っぽい体をしていて、これを麦藁に見立てて「シオカラトンボ」と呼びます。雄は複眼が青色、雌は緑色、たまに雌でも「塩辛型」になることがあるそうです。雄是水辺に縄張りを持ち、頻繁にパトロールして、他のオスが侵入してくると激しく追い払います。





また、縄張り内にやってきたメスに対しては優しくアプローチし、連結して交尾します。雄は尾の先を使ってメスの頭部を掴み、雌は尾を曲げてオスの副性器に接触することで交尾が行われます

交尾の後、雌が水面に尾を打ち付けて産卵（打水産卵）しますが、雄がその上を飛んで警護します。

産みつけられた卵は孵化すると、ヤゴ（幼虫）の姿で水中で3～10ヶ月過ごし、小魚や水中の小さな生物を捕食しながら成長します。

成長したヤゴは羽化し、空を飛ぶ成虫になります。羽化後しばらくは、未成熟な体で水辺の周りでエサを探しながら成熟していきます。成虫の寿命は通常1～2ヶ月ほどで、年に1～2回世代を繰り返し、幼虫で越冬します。

オオシオカラトンボ



一見シオカラトンボに似ていますが、少し大きめで、翅の付け根と先が黒く、眼も黒です。また、尾の黒い部分が少ないことでも見分けられます。シオカラトンボより、草木が茂った場所が好きなようで、万灯山山頂では見かけません。年1回発生が普通です。

やはり、塩辛型と麦藁型があります。雄は水辺のお気に入りの休憩場所を、シオカラトンボと争ったりしますが、体の大きいオオシオカラトンボが勝つことが多いようです。

里ではこんなトンボもみつかります

ショウジョウトンボ

年1回発生し、秋にみられる普通の赤とんぼの仲間より、大きく、赤みが強く、目まで真っ赤です。写真は雄で、雌は体が黄色です。



チョウトンボ

ほかのトンボと違い、チョウのようにひらひらと飛ぶので、名が付けました。

翅はメタリックに光ります。写真は雄で雌は後翅の先の斑紋がありません。年1回発生します。上記の3種も打水産卵です。

オニヤンマ

日本最大のトンボで、頭部から腹の先端までが9～11センチほどになります。特徴的な黄色と黒の縞模様があり、鮮やかな緑色の複眼を持っています。ぱっと見ただけではオス・メスの区別はつきません。

メスは飛びながら体を縦にし、長い産卵管を水辺の泥や砂に突き刺して卵を産みつけます。ヤゴは水中で4～5年過ごしますが、成虫になってからは、寿命が1～2ヶ月ほどです。

オスは縄張りを往復飛翔しているので、しばらく待つとまたやってきます。

ヤンマの仲間は、休む時は写真のように地面に垂直にとまります。

他にも、様々な種類のトンボたちがいます。ぜひ探してみてください。



7月はこんな生きものも見られます

菖蒲池の奥や田んぼエリアでは、サクラソウ科の多年草、**ヌマトラノオ**が群生して、白い小さな花を茎の先に密集して咲かせます。花穂が垂れ下がる様子を「虎の尾」に見立てて名付けられたオカトラノオに近縁で、湿地に咲くため名付けられましたが、こちらは垂れ下がりません。

田のあぜには、花弁が半分だけあるような、キキョウ科の多年草、**ミゾカクシ**の花が、まさに溝を隠すようにたくさん咲いています。

中央広場や、トンボの里、万灯山へ向かう道では**ヤブミョウガ**の涼しげな白い花が見られます。ツルクサ科の多年草で、葉が似ていますが、ミョウガのなかまではありません。



ヌマトラノオ



ミゾカクシ



ヤブミョウガ



アキノタムラソウ



ヒメヤブラン



ママコナ

万灯山山頂では、「秋」と名がつくシソ科の多年草、**アキノタムラソウ**が花盛りです。8月には「かぎ万燈の」草刈りのため、姿を消します。

登山道では、キジカクシ科の多年草**ヒメヤブラン**のかわいい紫色の花が見られます。秋には黒い果実がなります。

花卉に2つ並んだ白い膨らみが、米粒のように見えるハマウツボ科の1年草の**ママコナ**の花も咲きますが、これもかぎ万燈の草刈りで、一度姿がなくなります。

夏本番の里で、熱中症に気を付けて、こんないきものたちを探して里を散策しませんか。

6 月 の 行 事 紹 介



6月8日(日)、講座「草木染にチャレンジ!!」を開催。小学生連れの親子も参加してくれました。最初にヨモギを集め、その後タマネギ、マリーゴールドと3色の染液を作成。参加者は白い木綿のハンカチにビー玉や輪ゴムを結び、模様付けの準備をしました。完成した染液に20分ほどハンカチを浸し、その後定着液に。最後に洗って乾かすと独特で美しい色合いのハンカチができました！みんな大満足の楽しいイベントでした。
市のYouTubeに動画もあるので見てね。

7 月 の 行 事 予 定

13日(日)	梅雨時のキノコたちを観察しよう	20名	AM9:30~11:30	石川まゆみ
--------	-----------------	-----	--------------	-------

内容 ~森の妖精のようなかわいいキノコたちを西尾の里山で探してみませんか？

梅雨時にも意外とキノコはありますよ。一緒に探してみましょう！

26日(土) 27日(日)	夏の昆虫を探そう ※両日とも受付開始は7月5日(土)からで、両日の申込みはできません。	各日 30名	AM9:30~11:30	当園職員
------------------	---	-----------	--------------	------

内容 ~里山の自然の中を散策しながら、どんな昆虫がいるか探します。

カブトムシやクワガタなどの昆虫の探し方やつかみ方を実践します。

トンボやアゲハチョウなど実際にタモを使って採取し、観察した後、自然に戻します。

8 月 の 行 事 予 定

3日(日)	里の小川で生きものを探そう	30名	AM 9:30~11:30	神 本 晃
-------	---------------	-----	---------------	-------

内容 ~山から湧き出る水は里山を流れる小川となり、そこには色々な生きものが棲んでいます。

川に入って、タモで捕まえた生きものを観察します。

矢作川の西尾市流域に棲む生きものとの違いも調べてみましょう。

24日(日)	ガラスの破片でアクセサリを作ろう！	20名	AM 9:30~11:30	三矢由紀子
--------	-------------------	-----	---------------	-------

内容 ~西尾市の佐久島で集めたガラスの破片(シーグラス)を使ってアクセサリを作ります。

シーグラスができたがるお話から漂着ゴミのお話を聞いて自分のまわりのゴミについて考えてみよう。

(材料費:200円)

- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下**の場合は開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課